
議会改革検討会会議記録

令和元年6月12日

会 議 記 録

会 議 区 分	議会改革検討会	
開 催 年 月 日	令和元年6月12日	開 議 午後1時01分 散 会 午後2時13分
場 所	苫小牧市議会 議会大会議室	
出 席 者	代 表 者	矢嶋会長、池田団長、松尾代表、松井代表、 小野寺団長、桜井会長、 触沢議員
	代理出席者	————
	正・副議長	金澤議長、藤田副議長
欠 席 者	————	
説 明 員	————	
事 務 局 職 員	園田事務局長、宮沢主幹、能代副主幹、 小坂主査、高尾主査、西野書記、渡辺書記	
付 議 事 件 及 び 議 事 の 経 過 概 要	別紙のとおり	

●議長（金澤俊） お忙しいところ御参集いただきありがとうございます。
ただいまから議会改革検討会を開会いたします。

●議長（金澤俊） 今回、改選後初の検討会となりますが、改選前の3月15日開催の議会改革検討会において、引継ぎとなった3項目について、さらに新たな検討項目の追加、優先して取り組む事項についても御意見を伺い、6月定例会の検討会では検討事項の決定について協議ができるようにしたいと考え、本日の検討会を開催させていただきました。

●議長（金澤俊） 本日の案件につきましては、お手元に配付の会議案のとおりでございます。

資料につきましては、お手元に資料1及び資料2を配付させていただいておりますので御確認をお願いします。

●議長（金澤俊） 最初に、検討会の進め方についてでございます。

お手元に配付した資料1に、5月22日開催の代表者会議にて御了承いただいた検討会の実施方針等についてを記載してございます。

本日の検討会は、資料2にございます引継ぎ事項の3項目についての御意見、また、新たに検討項目として加える必要があるものを御協議いただき、さらに2年後の中間人事までの間に結論を出せるよう優先して検討する事項についても御意見いただければと思っております。

●議長（金澤俊） それでは、検討項目について御協議させていただきたいと思いますが、改選前から引き継がれた3項目について御説明をさせていただきたいと思っております。

資料2を御覧ください。

1、議会基本条例についてでございます。

本条例は、市民に開かれた議会を目指すことを第一に考えて制定するため、そのことを意識した取組、また、市民に信頼される議会を意識した取組を実施する必要があるとのことで、内容といたしましては3点ございます。

最初に、第6条、全員協議会です。

議員間討議の部分も含めた全員協議会の位置づけなどを定めるなど、事例の研究をはじめ、具体的な制度設計に取りかかっていたいただきたいとのことでした。

次に、第8条、広報広聴の充実に関連して、市民との意見交換の手法などについてです。

これは、議会報告会や議会報告会を行わない場合の別の手法の検討。例えば常任委員会と任意団体との意見交換を行う等、他市の状況を鑑み、第6条と同様、具体的な制度設計に取りかかっていたいただきたいとのことでした。

次に、第15条、条例の位置づけ等に関連して、条例の研修です。

条文にも任期開始後速やかに行わなければならないとあり、本年は改選もあることから、全議員に条例の理念を浸透させるため、研修の日程や進め方、内容等について早めの検討が必要とのことでありました。

2、議員定数、報酬についてであります。

まず、議員定数は、複数の会派からは検討項目から外したい、削減すべきではないという御意見もございましたが、以前より新たに立候補する候補者への不利益にならないよう早めにとということが共通の認識であり、その点を踏まえ、現定数の28名としたことによる委員会の人数割、こういったことも含めた検証の必要があるとのことでした。また、議員報酬は議員定数とセットかどうかという議論もございますが、改めて検討を重ねることとなっており、他都市の調査も踏まえた報酬の在り方も含めて検討すべきとのことでした。

3、議会のICT化の推進についてでございますが、先進市の調査や費用対効果も含めた検討の必要があるとのことでした。

引き継がれた3項目の説明は以上でございます。

●議長（金澤俊） それでは、引継ぎのあった3項目の協議に入りたいと思います。最初に、議会基本条例について。

この項目の取扱いについて各会派の御意見を伺いたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） せっかく以前の改選前の議員の皆さんで本当に多くの時間をかけて議会基本条例、せっかく決めた条例でございます。私たちの憲法とも言えるような、私たちの基本的な活動についてうたわれている条例でございますので、やはりこれが一番重いのかなと思っておりますので、一応言葉、文字としてはできましたけれども、これをどう活用して市民の皆さんに喜んでいただける条例にするということが大切かと思っておりますので、この基本条例を第一に考えて、そして具体的な私たちの

できること、この中からできるところから実行に移していけばいいのかなと思っております。

よろしく願いいたします。

●議長（金澤俊） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） 1番の基本条例、2番定数、報酬、議会のICT化ということで、これは全会派の皆さんが順位として優先ということであります。それについては全然異論がありません。これに沿って進めてくれて結構かと思うのですが、先ほどありました、例えば条例の研修だとか、できるものについてはどんどん進めてスピード化を図るということが前提で進めていきたいと、自分もその思いでいきたいなというふうに思っています。順位については、全然異論はございません。

●議長（金澤俊） 今引継ぎのあった3項目につきましては、それぞれの項目ごとにお考えを聞いていきますので、そのようにお答えいただければと思います。なので議会基本条例について、まずお伺いしていますので、民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 今御意見ございましたが、私たちの会派としても、まず議会基本条例というものを苦小牧市議会で制定をしましたので、ブラッシュアップを今後もしていくことも必要でありますし、やはり前に前に進めていかなくは絵に描いた餅になってしまうというふうに考えています。そういったところから、まずはこの議会基本条例をしっかりと議論をさせていくために、我々も優先順位としては、引継ぎ事項としてはこのような形で構わないというふうに思っています。

●議長（金澤俊） 改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 個別に考え方も言っているのでしょうか。

●議長（金澤俊） いいです。基本条例について。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 条例だけ。

●議長（金澤俊） 条例だけ、まずお願いします。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） はい、分かりました。

今ほど御意見が出されているように、この4月1日から施行されております基本条例、これは理念条例でございますので、これをいかに具現化、具体的な手法をもって開かれた議会、信頼される機会をつくっていくかということを最優先に考えなければいけないというふうに認識しております。

ですから6条の全員協議会、これについては、さきの改選前に様々議論が出ておりましたがけれども、議員間討論も含めまして具体的な手法の検討に入るべきだというふうに思っております。例えば、その中でも議員協議会の中で、今回投票率が過去最低になったということでもありますので、この投票率の低下に歯止めをかける、投票率を

アップさせていくために全議員で自由な討論をしながら解決策を模索していくということも一つの手ではないかなというふうに思いますし、さきの議会で流れてはおりますけれども、市長と議会の同日選挙、こういったことの在り方についても、この全議員がそれぞれの議員の立場で持っている意見を闘わせる、そんな機会にもできるのではないかなというふうに思っております。

それと8条の広報広聴の関係でございますけれども、市民との意見交換の手法については、さきの議論の中でも議会報告会については、他都市の例を見てもなかなか人が集まらない、マンネリ化する、そういったことでなかなか難しいなという意見も多く聞かれてはおりますけれども、私たちの会派としては、議会報告会は否定するものではなくて、既に行われている議会報告会の反省を踏まえた改善も他の議会では加えられている。そんな事例も調査研究をしながら、この検討の範疇に加えてはどうかというふうに思っておりますし、まずは前回の改選前の議長が提言をされておりましたけれども、各常任委員会による所管の関係する市内の市民団体、NPO、業界団体、そういった方々との意見交換を踏まえながら、それを委員会活動に生かしていく、こういった取組も可能ではないかなというふうに思っております。

それと、第15条の位置づけ等については、これについては直ちに取り組むべきだというふうに考えているところでございます。

以上、議会基本条例については、そのように会派の考え方としては持っておるところでございます。

●議長（金澤俊） 松井代表。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） それともう一点、ごめんなさい。

市民との意見交換の関係のところですけども、これは私どもの前の代表が提案をさせていただいております正副議長の定例会後の記者会見。これは金もかからず、すぐに取り組める手法だというふうに思いますので、これについても直ちに取り組むべきだという考え方を持っているということも付け加えさせていただきたいと思います。

●議長（金澤俊） 日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 議会条例については、この項目に上がっている6条、8条、15条、ここをまず優先的に議論していくという考え方で私たちもいいと思っています。

今松井代表のほうからもお話あったように、各常任委員会での各団体との懇談というのも大変有意義なものではないかなと思いますし、正副議長の記者会見という手法も定例化していくということについても、すごく開かれた議会ということと、市民に議会の様子を見てもらうという点では、大きなドアを開けるということにつながるか

と思いますので、そういうことも積極的に議論していけるようにしていきたいなと思っております。

以上です。

●議長（金澤俊） それでは、会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） 議会基本条例はもう既に全議員で十分討議をして、そして決めて今もう施行されるということですから、これに沿って今後やるわけですが、それにしても、今まではどうしたらできるのかという議論でしたけれども、今度はやっていかなければなりませんので、やはりやるという、そしてまたやってみるといろいろ反省も出てくるというふうに思いますので、これらの議論をし、そしてまたやった後の反省等、そういうものをしていかなければならないのだろうということで、全員協議会や広報広聴制度、これについてしっかり取り組んでいかなければならない。それから研修についても行わなければならないけれども、ただこういう条例をつくりましたよという研修ではなくて、やはり一歩進んで、それが今後の検討につながるような研修であってほしいというふうに思っています。

どちらにしても、こういうことについてしっかりと今後議論をしていきたいというふうに思っております。

●議長（金澤俊） 触沢議員。

●無所属（触沢高秀） オブザーバーという立場でもよろしいでしょうか。

●議長（金澤俊） はい。

●無所属（触沢高秀） 検討項目が上がっていますので、今できるものは速やかにやはり実行し、スピード感を持って検討、議論を進めていったらよろしいのではないかなと思います。

以上です。

●議長（金澤俊） ただいま各会派から議会基本条例について、具体的な事項も含めて提案があったわけでございますけれども、それ以外に条例についてございますでしょうか。

池田代表。

●公明党議員団団長（池田謙次） すみません、ちょっと言い忘れました。

今の下のいわゆる具体的なあれということで、ちょっと勘違いしてしまいましたけれども、先ほどの基本条例の8条の中でちょっと提案なのですけれども、今まで議会から様々な市民の方に対しての発信とか制度をつくってきましたけれども、一度ここで市民の方の声をしっかりとアンケートなりでいただくと。それを実際に、ここに書いてるように、開かれた議会が分母でありますから、その主体者たる市民の声を聞いて

いただきたいと、聞こうということで、まずは傍聴者の方にできるものであればアンケートをやって、その声を生かしていければなど。これも先ほど言ったように、できることからということがありますので、事務局の方に聞かないと分かりませんけれども、できれば9月なりの早い時期にスタートできたらどうなのかなというふうに思います。

それともう一つは、先ほどもちょっと出ていた定例記者会見。これは以前に議長さんが何度かされた経緯がありますけれども、そのときもやはり好評でありまして、ぜひ市長はじめ理事者の方にとすると、本日かな、議会のスタートということでいろいろな説明を記者会見していますけれども、ぜひ正副議長が終わったときに、短い長いではなくて、議会の雰囲気なりこういう形で市民の方に還元できるそういう定例記者会見というものはすぐにもできるわけですから、個人的にはもう6月からスタートすべきだという思いで、その分母になるのが、先ほど言いましたように、先ほど違う委員も言っていましたけれども、できるところから進めていこうと。多分それが改革の第一歩だと思いますので、この2つだけは改めて提案をしておきたいなというふうに思います。

●議長（金澤俊） その他、この議会基本条例を進めることにつきまして御意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） 今様々な御提案いただきましたけれども、この後ICT化含めて聞いてまいります。この議会基本条例自体は、やはり開かれた議会をということで進めることになっておりますので、今公明党さん、それから改革フォーラムさん、そして日本共産党市議団さんから、記者会見についての積極的に進めるべきという、やれることからやるべきということで御意見いただきましたけれども、事務局との確認等々含めてですが、もし可能であれば、御意見にありましたように、直近のこの定例会から始めていければというふうに正副議長としては思っておりますけれども、準備が整いましたらそういった方向で進めてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） はい、ありがとうございます。

その点だけは議会基本条例について決めて、確認をさせていただきたいと思います。

それでは、議会基本条例はそのように進めさせていただきます。

次に、議員定数、報酬について、同じく項目の取扱いについて各会派の御意見をいただきたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） 定数につきましては、これまでもある間隔を置いて少しずつ、2ずつですか。私が初当選のときは36が今28ということで、行政改革という観念もありまして、少しずつ議員の数も、少数精鋭というか、そういった状況に来ておりますので、私も次に向けて、今のこの28が適正かどうか、ぜひ議論していきたいなと思っておりますし、これはやはり次の4年後に出る方もおられるので、なるべく早い時期に、議員定数をいじるのかいじらないのか、皆さんと議論していきたいなと思っております。

それから、議員報酬につきましても、実はずっとここ二十何年以上据置きということでございます。よく地方ではなかなか議員の成り手がないというような、そういった問題も起きております。それから議員年金なども今はないという状況でございますので、今の議員報酬が適正なのかどうか、一度やはり議論させていただければありがたいなと思っております。

いずれにしても、定数と報酬につきましては皆さんと議論を深めていきたいと思っております。

●議長（金澤俊） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） うちも基本的な考え方としては、私もなったときは36、今28。本当に皆さんの御協力なりで定数を削減してきましたけれども、基本的に自分たちがそうやって毎回の選挙で2ずつ、今28になりまして、各委員会とのバランス、例えば市民の方の反映とか、それを1回きちっと検証しなければ駄目だと。ただ単に数をいじくるというだけではなくて、ですから、うちとしては、定数については現状のままで結構。そして、一回きちっと内容を精査しなければ駄目だというのがうちの考え方です。

議員報酬については、多い、少ない、様々な変化がありますけれども、いろいろな意見を交わすということについてはいいのですけれども、以前から一部セット論が出ていますけれども、セットに実際にはなっていない、現実にはなっていない、なるわけがない。なぜかという、定数を決めるのが議会であり、報酬を決めるのは審議会ですから、全然全く別な場における検討がセットになるわけがないわけで、ただ、多い、少ないとか、今言ったような新たな人材の確保という意味では審議を交わすことについては全然異論はありません。

それと、先ほど改革さんからもありました同日選挙については、ぜひともこれはしっかりもんでいければなという考えはあります。

以上です。

●議長（金澤俊） 民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝）　　まず、定数です。

ここは定数を下げると投票率の低下につながっていくのではないかというのが会派の見解です。また、簡単に下げるものではないというふうな考え方も持っておりますので、そういった観点からも検証が必要ではないかというふうに考えています。ですから、この引継ぎ事項の中で、さらに検討を進めていくべきだというふうに考えています。

また、議員報酬についてです。

これは経費等がどのように使われてきたのか、また、そういった中の精査というものがまだできていないのではないかという意見もありました。現状は最低限な数字なのかというふうにも見えています。ですから、このあたりもしっかり検証を進めていかななくてはならないというふうに会派としては意見を持っております。私どもは削減ありきの討論をしたいというふうには考えておりませんので、これを申し述べさせていただきます。

また、ほかの会派の皆さんからお話がありました同日選の関係も含めてなのですが、やはり先ほども申しましたとおり、投票率が非常に低いと。これらをしっかりと上げていくためには、やはり我々の努力も必要ではないかというふうに考えていますので、このあたりもしっかりと皆さんと議論を深めていきたいというふうに考えています。

以上です。

●議長（金澤俊）　　はい、ありがとうございます。

改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏）　　私どもの会派では、議員定数を削減するという考え方を前任期から申し上げておるところでございます。そんな中で、今任期においても、前期には結論を出さなければいけないと、この問題。それに前期内の結論を出すというところに向かって検証、議論をしていくべきだというふうに考えてございます。

その前段としましては、最近の全国各地の動向、そういったものも勉強しなければいけないと思いますので、参考人制度などを活用して勉強から始めて議論をしていくと、そういう手順を踏んで結論を出していくべきではないかなというふうに思っているところでございます。

以上です。

●議長（金澤俊）　　日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵）　　私たちも定数削減という、定数の問題で

は削減ありきという議論はすべきではないというふうに思っています。議会改革という中に定数の問題が盛り込まれて、どちらかというところ削減する方向がこれまで議論されてきたと思うのですが、私たちとしては議員定数を削減することが果たして改革になるのかという意味では、私はそうではないと思っております。公明党さんがおっしゃっていたように、減らすだけがやはり市民の意見をどう議会に反映させていくのかという観点からは逆方向に行ってしまう可能性もありますので、そのことも踏まえて、では現状維持でいくのかということ私たちは主体に置きながら議論できればいいなと思っております。どちらにしても議論を避けて通れない課題だと思っておりますので、議論するという方向では賛同していきたいと思います。

報酬についても、長年報酬が変わってきていないという問題、そして議員の成り手という問題などなど、そういうのを考えると、一度報酬について考えなければならぬというふうに考えます。報酬を考えたときに、減らそうという議論よりも増やそうという議論になるであろうと思うのですが、増やすことによつて、では今度は市民議会というのはどういうふうを受けられるだろうと思うと、これも逆に悩ましい問題でもあるので、一度しっかり報酬審議会の答申もありますけれども、そういうのも参考にしながら議論を始めるということ。そして、改革さんがおっしゃっていたように、任期の中での前期の部分で一定の結論を出すということには賛同していきたいと思います。

そして、市長選挙と市議選挙の同日選挙ということも意見がありましたけれども、これは私の受け取っている感覚なのですが、改選前の様々な議論の中で、これはもう決着がついたと思っているのです。そして、だからこそ議会の、この苦小牧市議会の中から国に要望意見書を出して、ちゃんと全国的な問題なので国レベルで改善策をしっかり検討してほしいという要望意見書を上げています。それが今苦小牧市議会での到達点だと思いますので、もう一度この議論を出してくるということにちょっと違和感を感じているのが私たちの考え方です。

以上です。

●議長（金澤俊） 会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） まず議員報酬については、先ほど矢嶋代表も言われておりましたけれども、25年以上もうずっと上がっていないという現状ですから、そしてその間に我々は議会の経費を抑える努力、もちろん定数の問題もありますが、そのほかにも政務活動費というか市政調整費、これは上がっているのですけれども、それ以上に、会派視察をやめていますし、その金額から考えたら、かえって削減してきたもののほうが多い。それから海外視察もやめています。そういういろいろなものを

見直してきている中で、ですから、我々はそういった意味できちんとそういうものや何かを提示して、できれば審議委員会の皆さんとも一度同じテーブルでこの問題を、そういう実情を我々直接訴えるような場もできればいいなというふうに思っております。報酬の件についてはそういうことで今後議論していきたいというふうに思っています。

定数なのですが、大変申し訳ないのですけれども、前回までは我々は据置きと。その前に一度、前回下げたそれをきちんと検証した上でどうするかという議論をするべきではないかというような趣旨を申し上げてきました。しかし、今回の選挙が終わって、谷川議員が自分の公約で2減らすということを行ったようでして、まだそれがうちの会派の中できちんと結論が出ていません。いない中で申し上げるのは申し訳ないのですけれども、そういう状況なものですから、我が会派の中できちんとまずは議論をしなければいけないというふうに思っています。それにしても、やはり定数を下げた後の検証をきちんとしなければいけないと。例えば、これ以上委員会の人数が減ることが果たしてどうなのだろうかという問題があります。そうすると、例えば委員会に複数所属ができるというような制度改正とか、そういうことにもなってきましたし、いろいろと考えられることはあるのですが、そういうことをきちんと検証した上でこの定数の問題を今後議論していかなければいけない。しかしながら、定数の問題ですから、なるべくなら前半のうちにきちんと結論を出して、次の選挙にある程度余裕を持った日程でこの問題に結論を出さなければいけないというふうに思っております。

以上です。

●議長（金澤俊） 触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 定数、報酬という検討項目ですが、私の勉強不足の面が多々あります。皆様の御意見を聞きながら、今後深い議論に参加させていただければと思います。

以上です。

●議長（金澤俊） ただいまの議員定数と報酬につきましては、全会派恐らくは議論をするということについては皆さん賛同いただける内容だったと思います。これまでの検証というものも必要であろうという声もあったと思います。この2点については、報酬と議員定数についてはそのように受け止めて進めさせていただきたいと思いますが、同日選について議論したほうがいいのではないかとこのところもあれば、共産党さんからは2年前に一度結論が出た話ではないのかという御指摘もありました。

こういう場は本当に議員討論の場にもなりますので、ここで決まるわけではありま

せんけれども、項目に上がるかどうかというところについては何回かやはりこういう場で議論しなければいけないのではないかなと議長としては思いますので、この場ですから、もしよかったらもうちょっと何か議論したほうがいいのではないかとこのころも意見があったら言っていただきたいし。

改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 先ほどのところでちょっと申し上げたかもしれませんが、2年前に結論を出したということも確かに事実してありますので、その言い分についても理解はするわけでありましてけれども、一方では今回の市議会議員選挙のさんさんたる投票率の低下というものにどうやって議会として対応していくかということを実際に考える。そんな議員間討論も必要ではないかということをお願いしていただきまして、この中でその同日選挙の在り方も当然議論されるべきだというふうに思っていますので、どこで議論していくかというのは確かにあると思いますけれども、それは議論していくべきだというふうに私は思っております。

●議長（金澤俊） 同日選について何か御意見のある会派は、ほかにございますか。
公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） 今改革さんからあったように、2年前に一つの区切りとして方向性になったことがありますけれども、改選になって新たに議員さんなり、新たな構成ができたわけですから。そして、幾つと言いませんけれども、幾つかの会派から大事な視点というふうに出ているわけですから、それは改めてきちっとどっかで議論をしないと、それは2年前、何年前に1回出したから、それが半永久的に続くなんていうことではないわけですから、それはきちっと一回この議会改革検討会の中でする項目にすればいいと思います。すればいいというか、それはいずれにしても一回まず持ち帰って、さらに皆さんの御意見はこんな感じよということで、次に集まったときにさらに同じテーブルに出して検討したほうがいいというふうに思います。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

何か御意見がほかにあれば。

先ほども申し上げました。ここで何か決まるわけではありません。恐らくもう持ち帰って、各会派でも議論いただかなければいけないと思いますので、よろしいですか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） はい、では持ち帰りで、ぜひ議論をお願いします。

日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 持ち帰りということなので、

この引継ぎ事項の1、2、3について今議論していると思います。4番目にこれを入れるかどうかということを経験するということなのではないでしょうか。

●議長（金澤俊） 一応進め方としては、後ほど新たに加える部分もお聞きしようとは思っておりましたが、今各会派が出ましたので、後ほど触れていただいても結構ですが、新たに加えるものなのか、同日選のもの、定数だとか、そういうものに関わるものとして扱うのかも含めて持ち帰って御議論いただければというふうに思います。後ほど発言いただくのは全然大丈夫で、認めたいと思います。

それでは、そのように進めさせていただきます。

最後に、議会のICT化の推進について、この項目の取扱いについて各会派の御意見を伺いたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） ICT化は世の中の大きな流れという中でのことかなと思っておりますが、当然コストもかかってくることでございますので、そのあたりもきちんと見比べて、慎重に、どこまでできるのか、そして、このことがやはり私たちは市民の幸せのためにあるわけで、そこはかけ離れているのであればちょっとまたどの程度までそれを推進すべきなのか、やはりコストの意識もちょっと持ったほうがいいのかなと思っておりますので、もし大変大きなコストがかかるのであれば、ではしばらくは現状でいきますかというか、そういった考えも出てくるかなと思っておりますので、ちょっと皆さんと議論をさせていただいて、結論を、どこまでならできるといふコスト意識を持った中で進めていただければありがたいなと思っております。

●議長（金澤俊） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） 今時代の流れとしては進めていくべきなのだろうと思うのですが、ただ、何と何をどう進めるかというのは一気に全部をどんっということではなくて、例えば議場にタブレットの問題とか、もっと言うと、それは28人の議員さんで構成をしているわけで、皆さんがそれに沿った形で現実問題としてできるのかなということもあるわけで、そこにやはり多少の時間を、議員さんのICT化の、分かりません、講習なりこういう形のものというのも、親切に言うと多分必要なのだろうと。その辺を踏まえた上で、先ほど言ったようにできるところから、これはできるのではないかと、これはもうちょっと時間ということがあるので、うちとしても今会派でもうちょっと詳細に今打合せしなければならないので、もうちょっとこれは時間の要る検討項目かなというふうに思います。

●議長（金澤俊） 民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） ICT化の議論はさきにも進められてきておりま

す。そういった経過もありました。これを推進していくためにはメリットとデメリットというものがあると思うのです。まず、メリットというのは、やはりその議場で自分たちが調べた資料をその場で確認ができるということが一つです。これはやはり質疑を展開する上で最も重要なことですし、それが反映されるとやはり助かる議員も多々多いのではないかなというふうには考えています。また、デメリットとして、議場でほかの調査をしたりだとか、また関係のないものが開けますよね。そういったところを危惧する声もありました。

ですから、やはりそのメリットとデメリットも含めて、もっと詳細に検討をというか、議論を進めていくべきではないかというふうに思っています。また、段階的にこれが施行されるのであれば、やはり委員会から試行するべきでもあったりしたり、また予算・決算委員会から試行するとかそういった考えも一応持ち合わせておることをお話をさせていただきたいと思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） 改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 議会ICT化の推進については、私どもの会派は導入すべきだという立場で、前々期だったでしょうか。その中で提案をさせていただいておりましたけれども、時期尚早ということで凍結にされていたという経緯があります。ただこの間、各自治体において議会ICT化が随分進んでおりますし、国会においても試行運用されてきておる時代でございますので、これは検討課題に上げて検討を進めるべきだという立場を改めて申し上げさせていただきたいと思ひますし、今具体的手法、メリット、デメリットのお話も出ていましたけれども、様々な角度から、運用についてもありますし、技術的な問題もあります。こういったことも含めて、苫小牧市議会として議会ICT化がどこまでできるのかということ具体的に検討するためには、やはりそれぞれの会派から代表の方に出させていただいて、専門的に検討をしていただく。そういったプロジェクトチーム、ワーキングチームなどを立ち上げてこの検討を進めるべきだというふうに考えております。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 前回この議論のときに、時期尚早だと言ってきた会派の一つが私たちだと思いますし、その一つとしては、ついていけないというような状況もありまして、抵抗感が強かったというのが現状です。ただ、新しいこの議会になった顔ぶれを見たときに、もうこれは拒否反応を示しているような時代

ではなく、議論を始めなければならないのだろうなということは思っております。そして、例えばこういう場で私に議論に加われといっても、全然知識がない私がICT化ということが議論にできるかといったら難しい中で、この専門的なプロジェクトチームもしくはワーキンググループなどというところで議論しようという提案がありましたので、そういうことから、そういうのを立ち上げながら松井代表がおっしゃったように様々な角度でということとは十分有意義な議論になるのではないかなと思いますので、そこは賛同していきたいなと思います。

以上です。

●議長（金澤俊） はい、ありがとうございます。

会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） 我々も前回時期尚早ではないかというふうに申し上げました。しかしながら、やはりメンバーもどんどん若くなり、そういう機器もそれぞれ利用するようになってきておる中で、やはりもうこれは前向きに検討するべきであろうというふうに思っております。

先ほど松井代表のほうから専門的なチームをつくってというようなお話がありましたけれども、そういうような形ででもやりながら、一遍にできることを全部やるというよりも、できることからみんなで足並みそろえて取り組んでいこうというような形で、例えばタブレットをみんなで持って、そして本会議なり委員会なりにそれを持ち込むと、持込みを許すというようなところから、それがどういうところを気をつけなければならないかどうかと、そういう議論をなるべく早く行って、早くみんなで対処していくということがいいのではないかというふうに思っています。

●議長（金澤俊） はい、ありがとうございます。

触沢議員。

●無所属（触沢高秀） ICT化大卒の議論はあると思うのですがけれども、私個人としては時代の流れているスピードが物すごく速いと感じておりますので、このICT化については、スピード感が非常に重要なのかなと思います。その中で深い議論を持って進んでいければなと思います。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

ICT化につきましては、各会派とも議論をするべきであると。これも引継ぎ事項であるとはいえ、そのような理解を全会派が持っていたいただいているということで分かりました。

ただいまの改革フォーラムさんから御提案でありましたけれども、プロジェクトチ

ームの設置による詳細の検討、こういったものもやはり一問一答のルールを決めたときのようにやるのであれば必要なというふうにも思うわけですが、その点も含めてプロジェクトチーム設置ということをやっていくことも含めて各会派で持ち帰りの上、結論を出してまた次の場面に臨んでいただきたいというふうにも思います。

それでは、ただいま協議いただきました3項目については、検討項目とすることで改めて決定をさせていただきたいと思います。

次に、新たな検討項目について各会派の御意見を伺いたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） 本来議会運営委員会で話されるべきことなのかなとは思いますが、一応うちの会派のメンバーからぜひこれを出してほしいということで言われましたのでしゃべらせていただきますが、例えば今現在常任委員会4つありますけれども、各1人1つということで制限がございますので、そうしますと、例えば人数の少ない会派の方ですと全く自分の会派から参加できない委員会もあるわけがございますのでね。先ほど桜井代表からも出ていましたけれども、例えば1人の議員さんが複数の委員会に参加できると。そういったこともぜひ検討していただきたいと。

それから、私たちは質問、議会というのは質問の場でございますけれども、日程的に先に一般質問、いわゆるフリーですね。フリーの中で質問ができる。これを終えてから委員会に分かれてそれぞれまた質問項目が出るのですが、委員会に先に理事者側から用意された項目というのですか。出てくるのですけれども、それと先にやった一般質問の項目が项目的にかぶるといふ。そういったことも往々にしてあるものですから、そういった場合、ちょっと一般質問では控えなければいけないのか、あくまでも委員会で質問してくださいということなのか、そのあたりのすみ分けですね。ただ、自分がその委員会のメンバーでなければずっとその質問ができないという現状がありますので、そのあたり一般質問での項目と委員会での出てきた案件がかぶった場合にどうしたらいいのかというか、そのあたりのすみ分けをちょっとはっきりさせてもらえればありがたいというメンバーからの意見がありましたので、ちょっとこの2点を出させていただきます。

●議長（金澤俊） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） うちには新たにというのは、先ほど一番最初に言いました、まずできるところからと、市民の方の声をしっかりアンケートなり何かで吸い上げしてほしいと、それを生かしてほしいと。先ほど言いましたように、できるものであれば6月、遅くて9月でもいいのですけれども。まずは傍聴人の市民の方の、実際に意識を持って来られた方の、それで現実に見てこういう改革があったほうがい

いのではないかということ、これをぜひ早急にやってほしいと。時間かけてやるというのではなくて、賛同を得られればすぐにでもできることかなというふうに思いますので、まずはこの一点だけ提案しておきます。

●議長（金澤俊） 民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 2点要請をしたいなと思っています。

1点目は、同日選挙の話が先ほど出ましたが、やはりこれまでの議論の中で、市民からも要望書という形で議会のほうに提出された経過もありました。やはり投票率の悪化が今後も懸念されてきますので、ここは議員としてもっと緊張感を持って市民と寄り添っていくためにどうしたらいいかということ積極的に議論する場所が一つでもあればいいなというふうに思っています。

また、特別委員会の映像による議会中継であります。今本会議そして予算決算委員会が議会で中継をされているわけなのですが、ぜひとも、常任委員会はやっと厳しいかもしれませんが、特別委員会については映像による中継によって、委員会でもそういった質疑がされているということをもっと発信すべきではないかというふうに考えていますので、このあたりも含めてぜひとも検討課題、これからしっかり議論をしていくためのテーブルにのせていただきたいと思います。

●議長（金澤俊） よろしいですか。

改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） ちょっと意見を言う前に、さきの発言に対してちょっと一つ確認をしたいと思っております。記者さんも入っているので誤解があってはいけないというふうに思いますので、確認をさせていただきたいと思えますけれども、一般質問における質問の在り方と所管委員会での審議事項、これがダブった場合に一般質問ではできないというルールはないはずなのですが、そういった思いでずっと議員活動を続けてきているのですけれども、その点について、後で結構でございますので、確認をさせていただきたいというのがまず1点。

その上で、私どもの会派からは、その他の部分で1点提案をさせていただきたいのは、議長選挙の在り方でございます。この議長選挙の在り方の中で、今せんだって札幌の市議会でも議長の所信表明をするべきだということで8時間ぐらいの空転があって、いろいろ報道でされておりますけれども、あの在り方は大変お粗末なものだなというふうに思いますけれども、おっしゃっている中身の中で、議長の候補者となる者の所信表明を述べて、開かれた議会、そういったところの取組にすべきだという中身については私は結構賛同できるなというふうに思っています。

それで、今朝の北海道新聞の朝刊にも書かれておりましたけれども、全国の市議会

で議会改革の一環として、全国814市ありますけれども、このうち304市がこういった議長選挙の所信表明をして、開かれた議会にしているというような報道がありました。実に市の40%の割合でもう既に始まっているわけでありますから、これについても、この項目の中で取り上げて議論していくべきではないかなという考え方を持っている次第でございます。

以上です。

●議長（金澤俊）　今改革フォーラム松井代表からありました、先ほど新緑さんのほうからあった、議会運営に関わるものではないかという枕言葉がついてですけれども、委員会での事項と一般質問の質問の在り方については、議長の認識としては、議案に関わるもの以外は一般質問では議員としては質問する。それはしっかり理事者側も答弁するというルールでやってきていると思いますが、確認のため事務局、答えられる範囲内をお願いしたいと思います。

議会事務局長。

●議会事務局長（園田透）　ただいまのお話ですけれども、ただいま議長がおっしゃったとおり、申合せ事項に議案等に関する事項については質問の対象としないことということが決まっております。ですから、議案等が出ている場合には一般質問、代表質問を含めて質問については御遠慮していただくということになっておりますけれども、先ほどおっしゃられたように、一般質問とその内容が例えば委員会の質疑に重複するような場合はどうなのかということにつきましては、特に申合せ等はございませんので、制限するものはございませんので、両方ともできるという認識でよろしいかと思っております。

以上です。

●議長（金澤俊）　よろしいですか。

それでは、各会派の意見を続けてお聞きしていきたいと思っております。

日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵）　私たちもちょっと新しい項目として考えているものはあるのですが、まず優先順位から考えた場合に、引継ぎ事項のこの3項目に絞っていくということが大事だと思っております。そして、今投票率の話なども先ほどからいろいろな会派の皆さんから出ておりますけれども、一番身近に議会を感じてもらって、そして自分の暮らしに議会の議論が本当に直結しているのだよということを知っていただく、そういう市民に開かれた議会にするということがまず私たちに課せられた大事な仕事だと思っておりますので、この議会条例に基づいた市民への発信していく、そして市民が参画できるような議会にどうしていくかということ、こ

こは一番ウエートを重くして議論していかなければならないと思っていますので、そこに一番重点を置く、この直近の議論の項目にしていくべきではないかなと思っています。なので、新しい項目というか、付け加えるものは今は持ち合わせておりません。

以上です。

●議長（金澤俊） 会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） うちから新た何かというものはありません。基本的に今まで出た中できちんと順番をつけて議論していけばいいのではないかと考えています。

●議長（金澤俊） 触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 私からはございません。

●議長（金澤俊） 分かりました。

新たな検討項目については各会派出していただいたものがございますので、これを受け止めて今後どのように進めるか、検討項目の確定についても一旦こちらで受けさせていただきたいというふうに思いますが、皆様から御意見何かございますでしょうか。

日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 今いろいろな会派の皆さんから新たに項目が出されたのですけれども、例えば公明党さんから出されたアンケートを早くやろうということだったり、特別委員会の映像中継をやったらどうだという民主さんのお話だとか、あと議長選挙のときの所信表明をやったらどうだという改革さんの御意見、どれも何か開かれた議会ということに直結する項目だと思うのです。なので、わざわざ新たに項目に乗せなくても、この中で今上がった項目を優先的に議論していったら十分議論ができると思うのですけれども、そういうのでいいのではないかと思いました。

以上です。

●議長（金澤俊） 分かりました。

ほか何かございますか。

公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） 賛成というか、そのとおりで、せっかくみんなの共通項としてどんどんやっていこうという思いは一緒なのだから、うちのがいいとか道がどうということではなくて、例えばできるものからとなれば、例えばさっきあった市民の声のアンケート一つにしても、民主さんの映像の件。ちょっと映像につい

てはちょっと技術的なものとか、よく分からないけれども、それが可能であるのであれば、さっき皆さんの同意の中で今日初めて新たなメンバーで来て、正副議長の定例記者会見が決裁、決裁というかみんなの同意でできたわけですから、もしできるのであればぱんぱんと進めていいのではないのでしょうか。それを今できるものとね、あとはいろいろな意見が出ましたから、最終的には正副議長で一回まとめてもらって、次回にこれだけのものが出ましたということの一つと、最初に言ったように、今できるものであれば、それはそれで決裁した、皆さんの合意を得るくらいのスピードでいいのではないかなというふうに私は思うのです。

●議長（金澤俊） 分かりました。

ただいま公明党議員団さん並びに日本共産党市議団さんからそれぞれ御意見が出されましたけれども、これまでに出示された皆さんの様々な提案も含めて正副議長案という形で皆様に再度お示しをしていきたいと思っておりますが、6月定例会の最終日の検討会で遅くとも正副議長案を示すような準備で今いきたいと思っております。そのような進め方でよろしいでしょうか。

会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） いいのですが、我々はそれまでに今日こういう出たものを各会派に戻って議論をして、それが出た段階で、議論ができる体制という、出されてから議論するのではなくて、そのときにはみんなで議論をするという考え方でいいのかな。

●議長（金澤俊） ええ、そうですね。はい。こちらから提案を、皆さんの意見をまとめたものを提案させていただきますので、そこで今池田代表からもありましたように、進められるものはもうその場で決めてどんどんやっていくというようなことでよろしいかと思うのですが。

池田代表。

●公明党議員団団長（池田謙次） 先ほど民主さんからあった、例えば特別委員会、常任委員会か。特別委員会のもう一つのほうの放映ということについて、ちょっと知識がなくて、例えばそれに対する経費だとか、こういうふうに出るのだということをして事前にもらえると、もう会派で、例えばこれはいいのではないかというものを持って次に臨むことができるのですけれども、あとの様々出たものについては正副議長のあれでいいのですけれども、ちょっと1点だけ言うと、皆さんがそれについて分かるのであれば、早めに分かるのであれば次の段階でも決裁、結論は出したいなという。

●議長（金澤俊） 民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 打合せの中では、常任委員会は今数がありますよ

ね、これを一気に中継かけるといって結構大変だと思うのです。物理的にももう無理だというのは分かっています。しかし、今この会議室もそうですし、隣もありますよね。隣は恐らく企業の決算委員会や予算委員会で使っていると思うのですけれども、もう場所があるし、カメラも設置されていますから、もう当然今池田代表もおっしゃったとおり、できないことはないと思うのです。ですから、そのあたりも含めてちょっと正副議長で検討していただいて、皆さんおっしゃるできるところから早くやってしまおうという観点で動いてほしいなとは思っています。

●議長（金澤俊） はい、先ほどの定例記者会見のように、もう既に例えば手続、費用面等あまり問題なくすぐできるというものについてはどんどん決めて、皆さんの合意のもとに進めていきたいと思いますが、例えば今の特別委員会の映像の話も技術的なものとか、こちらの事務局としての準備がどうなのかとかということもあると思いますので、先ほど公明党さんからもありましたようなアンケート調査、9月定例会からというところで、それも手続的にどうかというのもやはり事務局さんとの調整もありますので、その辺なるべく皆さんには前広に情報を出しながら、決めるところ早めに決めていきたいと思っていますので、そのような進め方でよろしいでしょうか。

松井代表。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 全くそのような進め方で異論はありません。それで、それぞれ各会派で持ち帰って議論しなくてはならないものも何点か出たと思いますので、それを正副議長案にするのだと思いますが事前にいただければ、なお、それぞれの会派でじっくり議論してその場に臨めるのではないかというふうに思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

●議長（金澤俊） はい、そのように手続を進めさせていただきますので。分かりました。

矢嶋代表。

●新緑会長（矢嶋翼） そっちの隣には一切こういうカメラは入っていないのでしたか。なぜ安全・安心及び市民ホールに関する特別委員会が10階あの狭い部屋でやるのかなといつも不満に思っていたもので。

●議長（金澤俊） 議会事務局長。

●議会事務局長（園田透） 隣の会議室は議会が所管するのではなくて、隣は市長部局が所管している会議室でございます。ですから、この大会議室はカメラがついていますし、隣もついているのですけれども、通常日程が入れないと市長部局側のほうの会議で議会中も使われている状態です。それで、私どものほうは10階のほうは

私どもの所管のものですから、常に10階の第3委員会室を使わせていただいているということでございます。ですから、今議員から提案ございましたけれども、その会議室がまず空いているかどうかというのが一番の問題になります。一年通じて全部会議室の日程は埋めてしまいますので、それを例えば特別委員会があるからぽんっと入れればいいのですけれども、入れないとなかなか難しいのかなという問題と、ちょっとこれは事務局サイドの話もあるのですけれども、やはりカメラを使うことによって通常の音声の場合とちょっと人工がやはり変わってきます。やはり映像がといたら映像チェックする者もやはり必要になりますので、そういう体制の問題、この2つの問題がございますので、今言ったようにすぐというのはなかなかちょっと難しいのかなと思っております。

以上です。

●議長（金澤俊） よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） それでは、そのように今後進めさせていただきたいと思います。次に、優先順位について各会派の御意見を伺いたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） 優先順位、やはりまず議会基本条例の範囲内のことをちゃんと取り組むということがやはり僕は最優先かなと思っております。

●議長（金澤俊） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） この順位で結構です。

●議長（金澤俊） この順位ですね、はい。

民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 私たちもこの順位で結構でございます。

●議長（金澤俊） 改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） スムーズに行っているときに、意見がちょっと言いづらいですけれども、これを終えてからこれという形ではなくて、同時並行で進めるものもこの中にあると思います。例えば皆さんの賛同をいただけるのであればそのプロジェクトチームをつくってICT化の推進を検討するということは、別組織の中で並行して検討していただくということもできると思いますし、それと議員の定数、報酬問題も、多くの会派から前期中に結論を出すべきというような御意見が述べられておりましたので、これについても議会改革の基本条例とともに一緒に並行して議論をしていかなければ時間切れということにもなりかねないなというふうに思っておりますので、そういった意見を持っております。

●議長（金澤俊） 日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 心の中の優先順位はこの順番なのですから、松井代表がおっしゃったように同時並行が必要だと思っています。まず、議会条例のことを議論しながらも定数のことに取りかかっているかなければ、それこそ2年間で結論を出そうということを見ると今すぐ議論していく必要がある課題だと思いますし、プロジェクトチームだとかワーキンググループをつくってICT化を議論するというのであれば、これは議会改革検討会とは別の場で議論することになるので、また同時並行できると思いますので、これからの議論の進め方によってはこの3つが同時並行で十分できるのではないかなと、またするべきではないのかなと思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） 会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） 私も議会基本条例のことについてはなかなか終わりがいいのではないかなというか、議論をしたからこれで終わりだよというのではなくて、いろいろやる中でまたいろいろ課題が生まれてきたり、それをまた乗り越えていく、そういう議論が必要なので、通してずっとやっていかなければいけないのではないかなというふうに思っています。議員定数については、やはり2年で結論を出すと、前半で結論を出す。それからICT化については、先ほど来言われているように、専門の詳しい皆さんでじっくり協議をしてもらおうという意味では並行して進められるものというふうに思っています。

●議長（金澤俊） 触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 皆様の御意見に賛同いたします。

●議長（金澤俊） 今各会派の御意見いただきましたが、先ほど何会派かの皆さんが言われてましたように、例えば基本条例は、皆さんもう最優先で進めるというのは、これはもう統一した御意見かなと思いますけれども、議員定数についてはやはり次の新人議員さんのことを考えますと、これまでの通例ですとやはり前期、少なくとも2年前ぐらいには決めてきたというのがこの議会の流れかとも思います。そうしますと、やはり期日的にも、この私と藤田副議長のこの2年任期の中でやはり定数については何らかの結論を出さなければいけないのかなと思います。そう考えますと、やはり条例の具体的なものを進めていくものと一緒に、この定数の話も同時並行というのがやはり必要なかというふうにも思いますし、ICT化につきましても先ほどプロジェクトチームという提案がありましたけれども、この設置についての賛否あるかと思いますが、もし設置されればこれは別組織で検討を進めることになりますので、こち

らも物理的には同時並行で進めるということも可能かと思えます。

いずれにしても、検討項目が今出てきたものをどう整理して決定するかというところとも関わってきますので、またの後日検討会の場で皆さんの御意見をこの優先順位についても伺いしていきたいというふうに思います。ありがとうございました。

最後に、議会基本条例の研修内容についてでございます。

議会基本条例の研修につきましては、条例の施行により任期開始後速やかに行わなければならないことから、正副議長としては案として7月9日火曜日、午前10時から開催をしたいと考えております。

内容につきましては、条例が施行されて初の改選であり、新人議員もいることから、昨年10月29日に開催をしました市民説明会で行った内容に沿って説明を行い、条例の策定に係る思いを議員皆さんで共有したいと考えております。

さらに、議事運営に関しまして、今年の3月に申合せ事項を一部改正いたしました動議と議事進行について、改めて全議員で共通認識を持ちたいと考えております。

なお、時間としては1時間半程度を考えております。また、この研修はマスコミの皆様にも公開をし、議員自ら行っていることを市民に発信をしたいと考えております。

この件について各会派の御意見を伺いたいと思います。

新緑さん。

- 新緑会長（矢嶋翼） それで結構でございます。
- 議長（金澤俊） 公明党議員団さん。
- 公明党議員団団長（池田謙次） オーケーです。
- 議長（金澤俊） 民主クラブさん。
- 民主クラブ代表（松尾省勝） はい、結構でございます。
- 議長（金澤俊） 改革フォーラムさん。
- 改革フォーラム代表（松井雅宏） 結構なのですけれども、1つ提案をさせていただきたいと思います。

議事進行と動議の関係でございますけれども、非常に分かりづらい解釈が伴うというふうに思いますので、ケースワークなんかができれば、事例みたいなものを上げて勉強できれば、より新人議員の皆さんも、我々もちゃんと知っているかといったらちよっと自信のないところがありますので、勉強のし直す機会になると思いますので、そのことも検討に加えていただければありがたいというふうに思っています。

以上です。

- 議長（金澤俊） ありがとうございます。

日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） この日程でオーケーです。

今松井代表がおっしゃったことは大事な視点だと思いますので、それも賛同したいと思います。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） 結構でございます。

●議長（金澤俊） 触沢議員。

●無所属（触沢高秀） よろしいかと思えます。

●議長（金澤俊） それでは、そのように進めさせていただきたいと思えます。

池田代表。

●公明党議員団団長（池田謙次） 今貴重な御意見があつて、例えば今の動議と議事進行もそうだし、先ほどの例えば一般で触れられる、触れられないという、分かっているようで分かっていないことが多々あると思うのです。それは全部やってくれなどとは言わないけれども、徐々にどこかの議会改革の中で、主体者の議員がきちっと議会ルールを知っていくということが大事なので、それも不定期で結構ですから、日程調整しながらぜひやっていただければなというふうに思うのですけれども。ちょっとお願いというか、提案です。

●議長（金澤俊） 今の提案もしっかりと受け止めて、進めたいと思えます。

それでは、先に進みます。

それでは、研修内容について確認をさせていただきましたが、議長としては、マスクミにも公開をし、議員自ら行っていることを市民に発信するためにも役割については議員が行うことを考えております。

なお、役割についてでございますが、条例に関しましては市民説明会では副議長が説明を行っておりましたことから、同様に藤田副議長に説明をしていただき、また動議等の関係に関しましては議会運営に関わる事項でありますので、議会運営委員長である板谷委員長にお願いをしたいと思えますけれども、そのような進め方でよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） それでは、そのように進めさせていただきたいと思えます。

なお、研修の進め方や詳しい内容等につきましては、正副議長に一任いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） それでは、そのようにさせていただきます。

本日の検討会では、様々な御意見を伺いましたが、今後の議会改革を進めるに当たり、6月定例会の最終日に行われる検討会では、検討項目及び優先順位について決定をしていきたいと考えておりますことから、本日各会派から出された御意見を持ち帰っていただき、各会派での御協議をよろしくお願ひしたいと思ひます。

●議長（金澤俊） その他、皆さんから何かございますでしょうか。
（「なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） それでは、議会改革検討会を終了いたします。
お疲れさまでした。

散 会 午後2時13分

以 上。